

令和7年度 府立鳥羽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

全日制課程  
令和8年3月27日

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「自律する人間」の育成をめざし、教育方針「人間性」「先駆者精神」「克己」の理念をあらゆる教育活動に活かし、知・徳・体のバランスに配慮した生徒一人一人の学力の向上と個性の伸長を図り、グローバル時代に期待される人材として次の6つの資質・能力を育む。</p> <p>① 歴史をとおして世界を俯瞰する力</p> <p>② 多様な文化的背景を持つ人と協働する力</p> <p>③ 科学的に思考・吟味する力</p> <p>④ 新たな価値を創造する力</p> <p>⑤ 課題解決の枠組みをデザインする力</p> <p>⑥ 困難な状況を突破する力</p>	<p>□学習指導 「授業で学力をつける」ことを学校全体で意識して取り組み、主体的に学習に取り組む態度を養った。探究的な学びに取り組み、発表の機会を設けることで生徒の表現力を育むことができた。一方で、自分の考えを文字に書き情報整理、記憶を定着させるという取組については、各教科の特性を踏まえつつ、ICT活用とのバランスを踏まえながら、意識的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>□生徒指導 間バイトや薬物乱用など、SNSを介してつながりやすい犯罪等について、その未然防止に向けて意識的に啓蒙を行った。落ち着いた教育環境を維持できているが、自ら安全を確保する自覚を促す指導を継続したい。また、ボランティアを通じて社会参加する生徒が少ないため、参加を促したい。</p> <p>□人権教育 「LGBTQ+」を取り入れた3年間の人権学習計画が整った。人権学習の前には「人権だより」を全学年で発行し、学習効果が一時的なものにならないよう取り組めたが、次年度は学校全体で共有し、教科指導等で活用できるよう取り組む必要がある。</p> <p>□進路指導 総合型選抜については、学年別指導計画を早期に検討・作成し、学校全体で見直しを持った指導ができるようにする必要がある。学力の指標を模範に置き、その分析と授業アンケートによる授業改善を繰り返しながら、授業力向上の取組を継続する。また、大学入学共通テストの出願手続きの電子化に対応する必要がある。</p> <p>□情報教育 一人一台端末について、MDM(モバイルデバイス管理)が外されたが、校内では適切に使用されている。今後は学校外での効果的な活用を促していく。ICTを活用した授業が標準的に行われているが、学力向上に有効であるかどうかについては、常に意識しておく必要がある。</p> <p>□読書指導 図書館や図書委員から積極的に生徒向け案内(新着図書、おすすめ本紹介等)を出し、図書館利用を促した。イベントを積極的に実施することで、身近な図書館の実現に取り組んだ。探究活動等でも活用しやすいう、図書資料の整理と充実を図りたい。</p> <p>□施設設備・文書・情報管理 エアコンの入れ替えが完了し、テニスコート4面、グラウンド、陸上競技用のタータンが改修されたことで、より充実した教育環境が整った。</p>	<p>(1) 自尊尊重の精神を基盤とする人権感覚を涵養し、規律ある中で互いに助け合い切磋琢磨する質の高い学習集団を作る。</p> <p>(2) 授業、学校行事、部活動を通じて対話と議論を重視し、学んだことを整理、体系化・系統化、応用、共同思考する力を育て、個性伸長と自律する人間の育成を図る。</p> <p>(3) ICTを活用し、グローバル社会との関連を重視しながらキャリア観を形成しつつ学力を伸ばし、希望進路の実現を図る。</p> <p>(4) 「授業を中心とした学習だけで大学に行ける学校」をモットーに、教職員間で一致した受験指導を行う。</p> <p>(5) 単位制の特長を活かしながら、新学習指導要領のカリキュラム及び大学入学共通テストを見据えた科目研究をさらに進める。</p> <p>(6) 本校の教育実践や生徒の活動を中学生や保護者に積極的に広報する。</p> <p>(7) 働き方改革を進め、生徒と向き合う時間をより多く確保する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	総括	成果と課題
学習指導	<p>単位制の特長を活かしたリベラルアーツ教育を推進し、生徒の学力・教養力向上を図る。</p>	<p>生徒の知的好奇心を高め、あらゆる教育活動を通して思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に課題を設定し自主学习に取り組むよう指導する。</p> <p>単位制及び観点別評価の実施による学習状況調査、授業評価、学力状況等の検証を行い、学科やコースの特色に応じた教育活動の改善を行う。</p> <p>スポーツ・教養コースにおける探究活動を発展させる。</p> <p>学んだことや自分の考えを生活化することで情報を整理しながら記憶の定着を図り、表現力を向上させる。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>○成果 ・探究活動、大学や企業等との連携、海外交流と授業を関連付ける取組が広がり、教育活動全体を通じて思考力・判断力・表現力を育成する連携体制が整った。 ・各分掌や教科主任会議、探究学習会議等の連携のもと、学力状況の把握や授業評価の推進、探究活動のさらなる活性化等が進み、教育活動の改善につながった。 ・学科・コースの特色を生かしたテーマ設定のもと、生徒が主体的に探究活動に取り組むことができた。 ・グローバル科のさらなる特色化に向けて、海外研修旅行の実施が効果的である。 ・学校評価アンケートの「教育活動・学習関連項目(4種類)」において、肯定的な回答が90%以上(平均値)となった。</p> <p>●課題 ・鳥羽高校の魅力向上に向けて、台湾研修や韓国研修に加えて、英語圏へ行く研修も検討する必要がある。 ・スポーツ・教養コースでの探究活動の発展については、コースの特徴を踏まえた上で、引き続き、取り組む必要がある。 ・教育活動全般について、全体像を俯瞰した上で、その費用対効果を検証し、適宜整理を行う必要がある。</p>
生徒指導	<p>ルールとマナーを守る態度を育成する。</p> <p>これからの社会づくりに積極的に貢献する態度を育成する。</p> <p>組織的にいじめの未然防止を図る。</p>	<p>挨拶を交わす、正しい言葉を遣う、身だしなみを整えることは、マナーの基本であることを理解させ、実践できるよう指導する。</p> <p>無断撮影、特殊詐欺、消費者被害等、SNSを介した犯罪に巻き込まれないよう未然防止の取組を行う。</p> <p>生徒会、各種委員会、クラス活動、ボランティア活動などを通じて、協働する力と社会参加への意識を養う。</p> <p>部活動を通して、技能を習得するだけでなく、思考力・判断力・表現力を育成し、主体性・意欲の向上につながるよう指導する。チーム内で切磋琢磨し、より高い目標を設定し、突破する力を養う。</p> <p>いじめについての理解を深めるとともに、日頃から人権意識を高め、生徒から相談されやすい関係を醸成する。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○成果 ・正門での登校指導を継続的に実施し、挨拶や身だしなみ等、基本的な生活マナーの定着を図った。 ・式典での講話や教室掲示を通じて、ルール遵守やSNSを介した犯罪被害防止に関する情報共有を行い、未然防止の意識を高めた。 ・問題行動等に対して丁寧な事後指導を徹底し、生徒が自身の行動を振り返り改善につなげる指導体制であった。 ・臨着期における服装規定の柔軟な運用や次年度のポロシャツ導入の決定等、適切なルール改訂等を進めた。 ・京都府警察署長から本校生徒が「自転車乗車ヘルメット着用促進プロモーター」に任命され、校内外の模範となった。 ・学校評価アンケートの「マナー・安全安心関連項目(2種類)」において、肯定的な回答が約90%(平均値)となった。</p> <p>●課題 ・特別指導に関わる事案が散見されたことから、人権意識や規範意識等の涵養に向けて、引き続き粘り強く指導を継続する必要がある。 ・服装規定等のルールについて、本校の伝統や大切にしたい思いは尊重しつつ、社会情勢や客観的事実等に基づいて改訂を進める必要がある。 ・自転車乗車やマナーに関する苦情がある中で、令和8年4月1日から交通反則通告制度が「16歳以上の者の自転車の反則行為」にも適用されることにも注目し、引き続き適切な指導を継続する必要がある。</p>
人権教育	<p>あらゆる教育活動をととして人権教育を推進する。</p>	<p>自他を尊重し人権問題を自分ごととして考える精神を養い、多様化・複雑化する人権問題の解決に向けた人権教育を推進する。</p> <p>人権学習の事前、事後指導を効果的に行う工夫する。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>○成果 ・今年度より各学年とも2回の人権学習を実施し、具体的な人権問題について理解を深めることができた。 ・人権学習の前後に関連資料を配布し、事前学習やポートフォリオのフィードバックを行い、人権について考える時間を設定した。 ・生徒および教職員を対象とした研修を計画的に実施し、自他を尊重する姿勢と人権意識の向上を図った。人権問題を自分ごととして捉える学習機会になった。</p> <p>●課題 ・生徒指導案件において、人権意識の希薄さに起因する例があり、引き続き粘り強く人権教育を継続する必要がある。</p>
進路指導	<p>生徒一人一人の進路希望を実現する。</p> <p>職業観・勤労観を育成する。</p>	<p>ICTを活用した入学選抜(個別学力検査のCBT等)に対応できるよう指導方法を研究する。大学入学共通テストについて、出願手続きの電子化に的確に対応し、そのノウハウを蓄積する。</p> <p>国立大学の総合型選抜・学校推薦型選抜を含む多様な入試に対する学年別指導計画を作成し、実践する。</p> <p>望ましい職業観・勤労観を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力・態度を身につけさせるため、計画的・継続的に進路指導・キャリア教育を行う。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○成果 ・大学入学共通テストの出願手続きの電子化に的確に対応し、生徒に対して丁寧な指導を行うことで円滑な出願ができた。 ・模擬試験結果の分析機会を設定し、補習の在り方を検討するなど、学力向上に向けた指導改善を進めた。 ・キャリア教育に関する研修や学習機会を確保し、望ましい職業観・勤労観の育成に向けた取組を推進した。 ・大学入学共通テスト後の時間割を工夫することで、例年より早く2次補習を始めることができた。 ・出席調査や選択講座の設置により、1・2年生の夏季補習・冬季補習を改善することができた。</p> <p>●課題 ・多様な入試に対応するべく、指導ノウハウの蓄積や校内研修等の更なる充実が必要である。</p>
情報教育	<p>タブレット等のICT機器を活用し、広く(グローバルに)、新時代(AI, Society 5.0)を主体的に、創造的に拓く態度を育てる。</p>	<p>情報モラル・情報リテラシーを身につけ、ICT機器を正しく効果的に活用することで、知識を体系・系統化、応用し、意見交流することができるようにする。</p>	<p>A</p>	<p>○成果 ・文房具としてのモバイル端末の使用が確実に浸透し、その効果的な活用に向けての議論が進行している。 ・授業における生成系AI活用の方針を明確にし、保護者に対して同意書を通じて適切に説明することで、ICT活用を推進する基盤を整えた。 ・学校評価アンケート「学習活動においてICTを効果的に活用し、学力の向上につながっている」で、肯定的な回答が80%以上となった。</p> <p>●課題 ・ICT活用について、国際的な動向(推進から制限に移行する国の動向)等に注視し、最適な活用方法を追求する必要がある。</p>
グローバル人材育成	<p>WWL事業実施校、グローバルネットワーク京都校として、グローバル・リーダーの素養を涵養する。</p>	<p>平常の授業に加え、国内外の人々との対話や協働活動をととして、多様性を尊重する態度及びグローバルな視野を持って思考・判断・表現する力を育成する。</p>	<p>A</p>	<p>○成果 ・「京都探究エクスポ2025」の生徒実行委員としての活躍、「グローバルネットワーク京都交流会」で優秀賞受賞、「2025年度全国高校生フォーラム」での発表、各種留学プログラムへの挑戦者増加等、グローバル・リーダー育成の成果が見られた。 ・新規に「台南第一中学校」との交換留学を開始することができた。 ・フランスおよび台湾との交換留学を軸に、国際的な対話と協働を重視したプログラム開発を推進した。 ・国内にいながらもホームステイの受け入れや授業内交流を通じて、国外の生徒と関わる機会を創出し、多様性を尊重する態度とグローバルな視野を育成した。</p> <p>●課題 ・上記取組やノウハウを、より多くの校内生徒や他校へ普及する等、汎用性を高める必要がある。 ・取組の成果を、海外大学への進学やさらなる国内希望進路の実現につなげる必要がある。</p>
保健・特別支援	<p>健康の保持増進と支援の必要な生徒の課題解決に必要な学校環境作りを進める。</p>	<p>検診等の結果を踏まえ、生徒の心身の健康の保持増進に努め、学校における保健管理、安全管理を適切に進めるとともに、支援の必要な生徒の教育的ニーズに応じて学習上、生活上の困難の改善を図る。</p>	<p>A</p>	<p>○成果 ・同時双方向型の授業の実施に向けて、校内マニュアルの整備およびその実施実績が蓄積された。 ・保健だよりやTeamsを活用して、生徒の健康保持増進に関する情報発信と呼びかけを継続的にし、健康意識の向上を図った。 ・緊急対応や救命対応、地球環境の激変に対する対策等の確かな実践により、安全安心環境の実現に大きく寄与した。</p> <p>●課題 ・同時双方向型の授業の実施による成果と課題を総括する必要がある。</p>
読書指導	<p>読書活動を推進する。</p>	<p>図書館からの情報発信や啓発活動、教科や総合的な探究の時間をはじめとする教育活動で、図書館利用を促進して読書活動を活性化させる。</p>	<p>A</p>	<p>○成果 ・図書館利用を促進するため、来館機会を創出する各種イベントを企画・実施し、読書活動の活性化を図った。 ・掲示物等を活用した啓発活動を行い、生徒の読書への動機づけを進めた。</p>
家庭・地域社会との連携	<p>家庭・地域・社会との連携と交流を積極的に行う。</p>	<p>HPをはじめ、説明会や出版物等を通じ、本校の教育活動に関して幅広く積極的な情報発信を行い、本校への理解を深める。</p>	<p>A</p>	<p>○成果 ・学校WEBページで教育活動に関する広報を行い、本校への理解促進に向けた情報発信を推進した。 ・探究活動の成果発表会を参照可能とし、家庭、中学生に本校の教育活動の知ってもらう機会を作った。 ・広報活動の結果、公立高校への厳しい状況の中にあっても、普通科とグローバル科の生徒募集で一定の成果が得られた。 ・学校評価アンケート「スタディサプリによる文書の配信によって、学校の様子がわかる」で、肯定的な回答が85%以上となり有効であった。</p> <p>●課題 ・学校評価アンケート「ホームページの新着記事を見ている」で、肯定的な回答が約54%と比較的低い値となった。本校の魅力発信については、時代に即したより訴求力の高いツール(Instagram, YouTube等)の活用も検討する必要がある。</p>
施設設備・文書・情報管理	<p>学習環境の質を確保する。</p> <p>個人情報に配慮した文書管理・情報管理を行う。</p>	<p>生徒の安全を確保するとともに、よりよい教育環境づくりに向け施設・設備の充実を図る。</p> <p>紙文書、デジタルデータともに、個人情報に配慮した適切な文書管理・情報管理を行う。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>○成果 ・生徒の安全と快適な学校生活を確保するため、グラウンド整備やトイレの部分改修等を実施し、施設環境の改善を行った。 ・校内の学習環境の質を高めるため、Wi-Fi環境の整備を進め、ICTを活用した教育活動の基盤を充実させた。</p> <p>●課題 ・体育館や講堂等の空調およびトイレの改修等、校内環境の整備について、引き続き要望していく必要がある。 ・文書内の個人情報について、一部確認不足があったので、再発防止に努める。</p>

学校運営協議会による評価  
・今年度の教育活動が着実に成果に表れたと評価する。教職員の皆様への敬意を表したい。また、前向きな課題を含む様々な改善点が明確になり、次の対策や取組のヒントが得られたことは重要である。次年度以降の学校経営計画に確実に反映していただきたい。  
・短期的な目標と中長期的な目標を踏まえ、府民の期待に応える学校づくりを期待する。中学生から選ばれ続けるためには、これまでの成果や伝統を大切にしながらも、各科・各コースの特徴の先鋭化も必要だと考える。その際には、取組内容の単純な積み上げではなく、必要に応じて精選していくことも大切である。

次年度に向けた改善の方向性  
・「学校評価アンケート(保護者対象及び生徒対象)の結果」や「学校経営計画の総括評価、成果と課題」等を踏まえ、今年度を含むこれまでの取組が適切で効果的であったと考える。次年度に向けては、京都府公立高等学校の新しい入学選抜制度の開始を踏まえ、本校の各科・各コースの特色化を進め、今まで以上に選ばれる学校づくりを進める。  
・今年度に明らかになった様々な課題に注目し、その改善に取り組む。特に、「安心・安全な教育環境の維持・構築」、「国内外関係機関との連携強化」、「探究活動の深化」、「訴求力の高い魅力発信」等をキーワードにして取り組む。その際には、教育活動全般を俯瞰した上で、取組内容や量の再整理も検討する。